

らんや、名醫褚澄の言に、世無難治之疾、有不善治之醫、藥無難代之品、有不善代之人、とあれば、潛夫論、治世不得眞賢の譬ひなれども、曲がれるを矯て直に過ぐと云ふべし、本草綱目に、元の時より胡蘿蔔西土に來るとあれども、潛夫論にてみれば、胡蘿蔔は、後漢の前より西土にありとみゆ、小朱蘿蔔、丁香蘿蔔の名を載せざるは、本草綱目一缺なるべし、

〔本朝食鑑<sup>三</sup>辛〕人參菜

集解即胡蘿蔔也、六月土用下種、生苗如蒿、莖有白毛、辛苦臭亦如蒿、八九月菜葉莖煮而作茹、冬十一月臘月及春采根、長五六寸、大者盈握、色黃赤似鮮地黃、羊蹄根、小者形似人參、截斷之、赤暈作圈、故俗稱人參、三四月開白花、攢簇如傘、狀似蛇牀花、子亦似蛇牀子、稍長有毛、褐色、采根煮食則甘、或味噉漬糟漬藏之、一種有野人參者、而形相似不堪用之、野人參與數人參同、而其中有藥本、不可不細辨也、

〔重修本草綱目啓蒙<sup>十八</sup>辛〕胡蘿蔔 セリ。ニンジン。ニンジン。ナニンジン。ニジン。ハタニンジン。

仙臺○  
中略

根ニ赤黃白ノ三種アリ、京師及大坂ノ産ハ、色赤黃ニシテ紫ヲ帶ブ、和州泊瀬及遠州ノ産ハ、深紫赤色名品ナリ、味亦美ナリ、京下鴨邊ノ者ハ、色黃ナリ、木津村及江州ノ産ハ、白色ヲ帶ブ、

〔農業全書<sup>三</sup>〕胡蘿蔔

にんぜん根の黃なるをゑらびて作るべし、白きは味も劣れり、たねを取事、春莖の立時、中にて細きはぬき去、ふとくして根の黃なるばかりを立をき、花の付時、枝をも皆切のけて、本莖ばかりの子を取べし、同じくゆる地、事、大根に替事なし、いか程も細かにこなし、糞を多く打からし置うるほひを得て、たねを砂と灰とに合せ、横筋を五六寸にきりて、薄く蒔べし、糞水なる程多くそ、ぎ、種子おほひを、指の厚さ程にして、早せば猶もさいく、水をそ、ぎ、草を取さり、二三寸にもなりたる時は、間引立、間を熊手にてかきあざり、段々間引て、後は五六寸に一本宛ある程に薄